

ミュンヘン安全保障政策会議での演説、 およびその後の議論¹

Speech and the Following Discussion at the Munich Conference on Security Policy

2007 年 2 月 10 日

ウラジーミル・プーチン

翻訳: 山形浩生 hiyori13@alum.mit.edu

Executive Summary

冷戦後の世界はアメリカ中心の一極世界に向かっていったが、これはアメリカが自分の勝手な要求を、しばしば武力により世界に押しつけるものとなっている。だが GDP でもその他の面でも今後は多極世界へと向かう。それに応じたグローバル安全保障アーキテクチャ再編が必要だ。核も含め、ロシアは軍縮してるのに、アメリカはごまかしの気配があるし、スターウォーズ計画なんか始めてるし NATO は拡大してるし、OSCE は NGO などを使って内政干渉しようとする。宇宙軍拡禁止や核不拡散の徹底、民生用原子力の核燃料サイクル確立などで対等な協力をすすめよう。また市場などの透明性やオープン性など、こっちには要求するくせに、自分たちは農作物保護その他を維持する偽善も許しがたい。対等な関係を目指したい（＝ロシアにもっと発言権を与えろ）（要約訳者）

目次：

プーチンの演説	2
質疑応答	11

¹原文、翻訳ともに [クリエイティブコモンズライセンス CC BY 4.0 国際](#)ライセンスで公開。

プーチンの演説

親愛なる連邦首相（訳注：アンゲラ・メルケル）、テルチクさん、紳士淑女の皆様、ありがとうございます！

40ヶ国以上もの政治家、軍関係者、実業家、専門家を集めたこのような代表会議に招かれたのを心より感謝しております。

この会議の構造のおかげで、過剰な礼儀正しさは避けられますし、もってまわった、聞こえはいいが空疎な外交表現で語る必要もないでしょう。この会議の形式のため、国際安全保障問題についての私の本当の考えを述べられます。そして私の発言が同僚のみなさんから見て無用に論争的だったり、手厳しすぎたり、不正確だったりするように思えても、怒らないでいただきたい。結局のところ、これはただの会議なのですから。そして演説の最初の二、三分で、テルチクさんがあそこの赤ランプを点灯させないことを希望するものではありません。

さて。国際安全保障は、軍事・政治安定性に関連したものよりずっと多くのもので構成されているのは周知のことです。それは世界経済の安定性、貧困克服、経済的安全保障、文明の間の対話育成も関わってきます。

安全保障が持つこの普遍的で不可分な性質は、「一人のための安全保障は万人のための安全保障」という基本原理として表明されています。フランクリン D・ルーズベルトが第二次世界大戦勃発の最初の数日で述べたように「どこかで平和が破られたら、あらゆる場所の万国の平和が危機にさらされているのだ」

この言葉は今日でも重要なものです。ちなみにこの会議のテーマ「グローバルな危機、グローバルな責任」にもそれが見られますね。

わずか20年前に、世界はイデオロギー的にも経済的にも分裂しており、グローバルな安全保障を確保していたのは、超大国二ヶ国間の巨大な戦略的能力でした。

このグローバルなにらみあい、最も先鋭的な経済社会問題を、国際社会と世界のアジェンダの周辺部に押しやってしまいました。そして戦争の常として、冷戦はたとえていうなら、実弾をたくさん残していきました。ここで言っているのはイデオロギー的なステレオタイプ、ダブルスタンダードなど、冷戦ブロック思考に典型的に見られる側面のことです。

冷戦後に提案された一極世界も実現しませんでした。

人類史は確かに一極の時代を何度か経たし、世界の至高の地位を目指す動きもありました。世界史では、いろいろなことが起きるものです。

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

しかし一極世界とは何なのでしょう？ どうごまかそうとも、結局のところそれはたった一つの状況を指すものです。つまり、権威の中心が一つ、武力の中心が一つ、意志決定の中心が一つ、ということです。

それは主人が一人、主権国が一つの世界です。そして結局のところ、これはその仕組みの中のみんなだけでなく、その唯一の主権国自身にとっても危険なものです。というのもそれは、その主権国を内側から破壊するものだからです。

そしてそれはまちがいなく、民主主義とはまったく相容れないものです。というのもご存じのとおり、民主主義は少数派の利益や意見を考慮しつつ多数派が権力を持つということだからです。

ちなみにロシア——我々——は絶えず民主主義についてお説教を受けています。しかしそのお説教をしたがる人々は、なぜだかそれを自分では学びたくないようです。

私は、一極モデルは容認できないだけでなく、今日の世界では不可能だと考えます。そしてこれは、もし今日の——そしてまさに今日の——世界において単一のリーダーシップがあるなら、軍事、政治、経済リソースが足りないから、というだけではありません。もっと重要なのは、このモデル自体が破綻しているということです。というのもその根底には現代文明の道徳的基盤がないし、またあり得ないからなのです。

これに伴い、現代世界で起こっていること——そしてこれについてはまさに議論が始まったところ——は国際関係にまさにこの概念、つまり一極世界の概念を持ち込むという試みです。

そしてその結果は？

一極的（一方的）でしばしば非正当な行動は問題をまったく解決していません。それどころか、新たな人間悲劇を引き起こし、新しい緊張の中心を作り出しています。ご自分で判断してください。戦争も、地域的、局所的な紛争は減っていません。テルチクさんはこれをきわめて穏健に述べられました。そしてこうした紛争で消える人々も減っていません——以前よりむしろ多くの人々が死んでいます。はるかに多く、ずっと多くの人々です！

今日、我々はほとんど抑えが効かないほどの武力行使を目撃しています——国際関係において、世界を永続紛争の深淵に叩き込んでいる武力です。結果として、こうした紛争のどれ一つに対しても包括的な解決策を見出すに足る強さを我々は持っていないのです。政治的な解決を見出すのも不可能になります。

国際法の基本原理に対する軽視がますます高まっています。そして独自の法的規範が、実際のところますますある一つの国の法体系に近づきつつあります。その一つの国とはもちろん、まずどこよりもアメリカ合衆国で、彼らはあらゆる形で自国の国境から踏み出しています。これはアメリカが他国に押しつける経済、政治、文化、教育政策にはっきり見ら

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

れます。で、だれがそれを気に入っているのでしょうか。だれがそれで喜んでいるのでしょうか？

国際関係では、ますますどんな問題でも、現在の政治的雰囲気に基づいて、政治的な緊急性と称されるものに従って解決したがる様子が見られます。

そしてもちろん、これはきわめて危険です。それは我々のだれも安全に感じられないという事実をもたらします。これは強調しておきたい——だれも安全に感じられないのです！ というのも国際法が自分たちを守ってくれる石の壁のようなものだとはだれも感じられないからです。もちろんそうした政策は軍拡競争をもたらします。

武力の支配性のためどうしても、多くの国が大量破壊兵器を獲得したがることになります。さらに、顕著な新しい脅威——とはいえ、これらも以前からよく知られたものではありません——が搭乗しており、今日ではテロリズムのような脅威がグローバルな性格のものとなっています。

私は、グローバル安全保障のアーキテクチャについて真剣に考えるべき決定的な瞬間がやってきたと確信しています。

そしてそれを進めるには、国際対話におけるあらゆる参加者の利益について、まともなバランスを探さねばなりません。特に国際的な風景は実に多様で実に急変するからです——そうした変化は、きわめて多数の国や地域におけるダイナミックな発展を反映したものです。

ドイツ連邦首相殿がすでに述べた通りです。インドや中国の購買力平価に基づく GDP をあわせると、すでにアメリカよりも多いのです。そして BRIC 諸国——ブラジル、ロシア、インド、中国の GDP で同じ計算をすると、EU の GDP 合計を超えます。そして専門家によればこのギャップは今後開く一方です。

グローバルな経済成長の新しい中心が、必然的に政治的影響力に変換されて、多極性を強化するというのは疑問の余地がないことです。

これとの関連で多極外交の役割がますます高まっています。政治におけるオープン性、透明性、予測可能性の原理が必要だというのは不可侵であり、武力行使は本当に例外的な手段で、一部の国の司法における死刑の利用に相当するものになるべきなのです。

しかし今日見られるのはその正反対の傾向で、殺人者など危険な犯罪者に対してすら死刑を禁止した国々が、正当とはとても考えられない軍事作戦に平然と参加しています。そして実際のところ、こうした紛争は人を殺しています——何百、何千もの民間人の命を奪うのです！

しかし同時に、各国の様々な内紛に対して無関心で超然としているべきなのか、という問題が生じます。専制的な政権や圧政者や、大量破壊兵器拡散などはどうでしょうか？

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

実のところ、これまた我々が親愛なる同僚リーバーマン氏が連邦首相殿に尋ねた質問の核心でもありました。あなたの質問を私が正しく理解しているなら（とリーバーマン氏に向かい）、もちろんこれは深刻な問題です！ 現在起きていることから見て、それに対する無関心なオブザーバーを決め込めるのでしょうか？ 私もあなたの質問に答えて見ましょう。もちろんそんなことはできません。

しかしそうした脅威に対抗する手段は持っているのでしょうか？ もちろんあります。最近の歴史を見るだけで十分です。我が国は民主主義への平和的移行を実現しなかったのでしょうか？ 実のところ、我々はソヴィエト政権の平和的な移行を目撃しました——平和的な移行です！ すさまじい政権ですよ！ なんとという大量の兵器、しかも核兵器まであるのです！ なぜ今になって、何かというと手当たり次第爆撃や砲撃を始めねばならないのでしょうか？ 相互破壊の脅しがあれば、政治的な文化や民主的価値観および法の尊重が不十分だという話なのではないでしょうか？

私は、最後の手段としての軍事力使用に関する決定を下せる唯一の仕組みは、国連憲章だと確信しています。そしてこれとの関連で言えば、我々が同僚たるイタリア国防大臣がついさっき述べたことを、私が理解できなかったのか、あるいは彼の発言が不正確だったのか。いずれにしても、私は武力行使は NATO か EU か国連が行った決断の場合でしか武力行使は正当ではあり得ないという話だと理解しました。もし本気でそう思っているのなら、私たちの間には見解の相違があります。あるいは私がちゃんと聞き取れなかったのかもしれない。私の理解では、武力行使が正当と考えられるのは国連が認めた場合だけです。そして国連を、NATO や EU で置きかえる必要はない。国産が本当に国際社会の力をあわせて、本当に各国における出来事に対応できるなら、我々が国際法の軽視を捨て去れるなら、状況は変われます。そうでなければ、状況は単に行き詰まりに終わり、深刻なまちがいの数は何倍にも増えます。これに伴い、国際法がその起草においても規範の適用においても、いずれも普遍的な性格を確実に持つようにすることが必要です。

そして民主的な政治行動は必然的に議論と面倒な意志決定プロセスを伴うのを忘れてはいけません。

親愛なる紳士淑女の皆様！

国際関係の不安定化が持つ潜在的な危険性は、軍縮問題に見られる明らかな停滞とも結びついています。

ロシアはこの重要な問題についての対話刷新を支持します。

兵器破壊に関連した国際法の枠組みを維持し、したがって核兵器削減プロセスの継続を確保するのが重要なのです。

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

アメリカ合衆国と共同で、我々は戦略核ミサイル能力を、2012年12月31日までに1700-2000核弾頭にまで減らすことに合意しました。我々のパートナーも透明性ある形で行動して、何かあったときのために、数百くらいの余分な核弾頭をどこかに寝かしておいたりしないよう期待したいものです。そして今日、新任のアメリカ国防長官が、アメリカがそうした余分な兵器を倉庫や、あるいは言うなれば枕の下や毛布の下に隠したりしないと宣言してくれるなら、みんなで立ち上がり、この宣言を直立して歓迎しようではありませんか。これはきわめて重要な宣言となります。

ロシアは核兵器不拡散条約や、ミサイル技術の多国間監視レジームを厳格に遵守しており、今後も遵守するつもりです。こうした文書に含まれた原則は普遍的なものです。

これとの関連で、1980年代にソ連と米国が各種の短距離および中距離ミサイル破壊の合意に署名したのに、こうした文書は普遍的な性質を持たないことは改めて想起したい。

今日では、他の多くの国がこうしたミサイルをもっています。朝鮮民主主義人民共和国、大韓民国、インド、イラン、パキスタン、イスラエルなどです。多くの国はこうしたシステムの開発を進め、それを兵器庫の一部に組み込もうとしています。そしてそうした兵器システムを創り出さない責任を負っているのはアメリカとロシアだけです。

こうした条件下では、我々が自分自身の安全保障確保を考えねばならないのは当然です。

同時に、新しい不安定化を招くハイテク兵器の登場を禁止するのも不可能です。言うまでもなく、これは新時代の対立、特に外宇宙での対立を防ぐ手段の話です。スターウォーズはもはやファンタジーではありません——現実です。1980年代の半ばに、我々がアメリカの相方はすでに自分自身の人工衛星を迎撃できました。

ロシアの意見としては外宇宙の軍事化は国際社会にとって予想外の影響を持ちかねず、各時代の到来そのものを引き起こしかねません。そして我々は外宇宙での兵器利用を防ぐためのイニシアチブには、複数回にわたりお目にかかっているのです。

今日私は、外宇宙での兵器配備を防ぐ合意のためのプロジェクトを用意したことをお告げしたい。そして近未来には、それは公式提案として我々のパートナーたちにも送付されます。いっしょにこれに取り組みましょう。

対ミサイル防衛システムのある一部をヨーロッパに拡張しようという計画には、不安を感じざるを得ません。この場合ですと不可避な軍拡競争となるものの次のステップなど、だれが要りましょうか？ 当のヨーロッパ人たち自身ですら、そんなものを求めているか大いに疑わしいものです。

通称問題国のどれ一つとして、ヨーロッパに本当に脅威をもたらす5000-8000kmの射程を持つミサイル兵器など持っていません。そして近未来とその先においてもそんな事態

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

はやってこないし、当分の間はそんな事態は起こらないでしょう。そして仮想的にそんな発射があったとしても、北朝鮮のロケットがアメリカ領に向かうときにヨーロッパを通るというのは、弾道の法則に矛盾しています。ロシアの格言にあるように、左の耳に触れるのに右手を使うようなものです。

そしてここドイツにいる以上、ヨーロッパ通常戦力条約（CFE 条約）の哀れむべき状態についてはどうしても触れずにはられません。

1999 年に CFE 適合条約が調印されました。これは新しい地政学的な現実、つまりワルシャワブロックの廃止を考慮してのものでした。それから七年たって、この文書を批准したのはロシア連邦を含めたたった四ヶ国だけです。

NATO 諸国は公然と、ロシアがジョージアとモルドバから軍の基地を引き揚げない限り、側面制約の条項（側面地域に一定数の軍を配備することへの制限）を含めこの条約を批准しないと宣言しました。我が軍はジョージアから撤退中ですし、そのスケジュールを前倒しにさえしています。ジョージアの相方と抱えていた問題を我々が解決したのは周知の事実です。平和維持活動を行い、ソ連時代からの弾薬が残っている倉庫を保護するために兵員 1500 人は残っています。この問題については絶えずソラナさん（訳注：当時の NATO 事務総長）と議論して、彼も我々の立場を知っています。我々はこの方向でさらに作業を進める用意があります。

しかし同時にどんなことが起こるのでしょうか？ 同時に、柔軟前線とか称するアメリカの基地が、それぞれ最大五千人も配備されてあちこちにできています。実は NATO は我が国の国境に沿って前線軍を設置しているのに、我々のほうは条約の義務を遵守して、こうした行動には一切反応せずにいるのです。

NATO 拡大はこの同盟の近代化だの、ヨーロッパの安全保障確保だのとは一切関係がないのは明らかでしょう。それどころか、これは相互信頼の水準を引き下げる、深刻な挑発を示すものです。そして我々には尋ねる権利がある。この拡大はだれに対して意図されたのですか？ そしてワルシャワ条約機構解体後に、西側パートナーたちが行った保証はどうなったのでしょうか？ そのときの宣言はいまどこにあるのでしょうか？ だれもそんなものを覚えてすらいません。でも私は敢えて聴衆のみなさんに、何が言われたかを思い出させてあげましょう。NATO 拡大は NATO 事務総長ヴェルナーさんが、1990 年 5 月 17 日にブリュッセルで行った演説を引用しましょう。彼は当時「我々が NATO 軍をドイツ領の外に置く用意がないという事実は、ソヴィエト連邦にしっかりした安保上の保証を提供するものだ」と述べました。そうした保証はどこへいったのでしょうか？

ベルリンの壁の石やコンクリートブロックは、おみやげとして配られてしまっていて久しい。しかし、ベルリンの壁崩壊が可能だったのは、歴史的な選択のおかげだったというの

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

を忘れないようにしましょう——その選択は、我々の国民、ロシアの人民も行ったものなのです——民主主義、自由、オープン性、大ヨーロッパ一家に属する国々との誠実なパートナーシップを支持する選択です。

それがいまや、彼らは新しい分割線や壁を我々に押しつけようとしている——そうした壁はバーチャルかもしれないが、それでも分割はするし、大陸を分断するものです。そしてこうした新しい壁を解体して取り壊すには、またもや何年も、何十年も、さらに何世代もの政治家たちを必要としたりするなどということもあり得るのでは？

親愛なる紳士淑女の皆さん！

我々は、不拡散レジーム強化については文句なく賛成です。現在の国際法原理は、平和目的で核燃料を製造する技術開発を可能にしています。そして多くの国はきわめて正当な理由から自国のエネルギー自立の基盤として独自の原子力を作り出したい。でも我々は、こうした技術がすぐに核兵器に転用できることも理解しています。

これは深刻な国際的緊張を作り出します。イラン核プログラムを取り巻く状況がはっきりした例となります。そして国際社会がこの利害対立を解決するための、まともな解決策を見いだせなければ、世界は同様の不安定化する危機に苦しみ続けることになります。境界線上にいる国はイランだけではないからです。我々はどちらもこれを知っています。我々は絶えず、大量破壊兵器拡散の脅威に対して戦い続けることになります。

去年、ロシアはウラン濃縮国際センターを作ろうというイニシアチブを提案しました。我々はそうしたセンターがロシアに作られるだけでなく、民生原子力エネルギーを使う正当な根拠のある他国にも作る可能性にはオープンです。自国の原子力エネルギーを開発したい国々は、そうしたセンターへの直接参加を通じて燃料供給の保証を受けられます。そうしたセンターは、もちろん、厳しい IAEA 監督下で運用されます。

アメリカ大統領ジョージ・W・ブッシュが提案した最新のイニシアチブは、ロシアの提案にも沿うものです。私はロシアと米国が客観的に等しく、大量破壊兵器の不拡散レジームとその配備（訳注：を阻止する）レジーム強化に関心があると考えています。新しいもっと厳格な不拡散手法を発達させるリーダーとして行動しなければならないのは、主要な原理力とミサイル能力を持つ、まさにこの両国なのです。ロシアはそうした作業の用意があります。我々はアメリカの友人たちとの相談に取り組んでいます。

一般に、自前の核燃料サイクル確立するのが個別国の利益にはならないが、それでも原子力エネルギーを開発してエネルギー能力を強化する機会は得られるような、政治インセンティブと経済インセンティブの総合的なシステム開発について相談すべきです。

それとの関連で、国際エネルギー協力についてもっと詳しく話しましょう。ドイツ連邦首相殿も、これについてちょっと述べています——この問題に言及、触れたのです。エネ

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

ルギー部門でロシアはすべての国にとって均一な市場原理と透明な条件を作り出そうとしています。エネルギー価格は政治的な投機や経済的圧力や恫喝にさらされるのではなく、市場で決められるべきだというのは当然です。

我々は協力にはオープンです。我が国の主要なエネルギープロジェクトすべてには、外国企業が参加しています。推計にもよりますが、ロシアでの原油採掘の最大 26%——是非ともこの数字を考えてください——最大 26%のロシア原油採掘は、外国資本で行われているのです。ロシア企業が西側諸国の主要経済部門で大規模に参加しているような、類似の例があれば是非とも教えてください。そんな例はありません！ そんな例はないのです。

またロシアへの外国投資と、ロシアが外国に行う投資とのバランスも指摘したい。その比率は 15 対 1 です。そしてここには、ロシア経済のオープン性と安定性の明らかな例があります。

経済安全保障は、全員が均質な原理に準拠すべき部門です。我々は完全に公平である用意があります。

この理由から、ますます多くの機会がロシア経済に登場しています。専門家と西側パートナーたちは客観的にこうした変化を評価しています。このためロシアの OECD ソブリン信用格付けは改善し、ロシアは第四グループから第三グループに昇格しました。そして今日ミュンヘンにいますので、この機会にこの決定についてはドイツの同僚たちに感謝を述べておきたいと思います。

さらにご存じの通り、ロシアの WTO 加盟プロセスは最終段階までできています。長い困難な議論の間に、言論の自由、自由貿易、対等な機会についての発言を一度ならず耳にしましたが、なぜだかそうした発言はロシア市場についてのみ行われていました。

そしてグローバル安全保障に直接影響する重要な主題が、まだもう一つ残っています。今日では、多くの人々が貧困に対する闘争について語ります。この分野では実際に何が起きているのでしょうか？ 一方では、金融リソースが世界最貧国支援のために割り当てられています——そしてときにはそれがかなり巨額の金融リソースです。しかし正直言って——そしてここにいらっしゃる多くの方はご存じのことですが——その同じドナー国の発展と紐付いているのです。そしてその一方で、先進国は同時に農業補助金を維持して、一部の国がハイテク製品にアクセスするのを制限しています。

そしてありのままに語りましょう——片手で慈善に満ちた支援を配りつつ、反対の手では経済的後進性を温存するだけでなく、そこからの利益をピンハネするのです。停滞地域における社会的緊張増大はどうしても、急進主義、極端主義の発展をもたらし、テロリズムと地域紛争を後押しします。そしてこうしたすべてが、たとえばですよ、ますます世界

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

全体が不公平だという感覚を抱くようになっていく中東のような地域で起これば、グローバルな不安定化の危険が生じます。

世界の先進国がこの脅威を見るべきだというのは明らかです。そして、だから彼らがグローバルな経済関係におけるもっと民主的で公平なシステムを構築すべきだということも明らかです。万人にチャンスが与えられ、発展の機会が与えられるシステムです。

親愛なる紳士淑女の皆さん、安全保障政策会議で話をするからには、ヨーロッパ安全保障協力機構（OSCE）について言及しないわけにはいきません。ご存じの通り、この組織は安全保障のあらゆる——そしてこの「あらゆる」は強調したい——側面を検討するために作り出されました。軍事、政治、経済、人道、そして特にこれらの領域の間の関係です。

今日、何が起きているのが見られるのでしょうか？ このバランスが明らかに破壊されているのが見られます。人々は OSCE を、ある一つの国、または国々の外交利益促進用に設計された粗野な道具に変換しようとしています。そしてこの作業はまた、各国の創建者たちとは絶対につながりのない、OSCE の官僚的な仕組みによっても実現されています。意志決定の手順と、非政府組織（NGO）と称するものの関与はこの作業のために仕組まれています。こうした組織は形式的には独立していますが、魂胆を持って資金提供され、したがって牛耳られているのです。

創建文書によると、人道領域で OSCE は各国の要請に基づき国際人権規範遵守について加盟国を支援するよう設計されています。これは重要な作業です。我々はこれを支持します。しかしこれは、他国の国内問題に干渉するということではないし、特にそうした国々が生きて発展するやり方を決めるレジームを押しつけるということではないのです。

そうした干渉が民主国家の発展を促進しないのは明らかです。それどころか、そんな干渉はそうした国の依存性を高め、結果として政治的かつ経済的に不安定にしてしまうのです。

OSCE はその主要な任務に則り、独立国とは尊敬、信頼、透明性に基づいて関係構築をするよう期待します。

親愛なる紳士淑女のみなさん！

終えるにあたり、私は以下の点を述べたい。我々はあまりにしばしば——そして個人的には私自身があまりにしばしば——ヨーロッパを含む各種パートナーたちから、ロシアは世界問題においてますます活発な役割を果たすべきだといった訴えを耳にします。

これとの関連で、一つちょっとした所感を述べさせてもらうことにします。そんなことを我々に対して煽る必要などないも同然です。ロシアは千年以上の歴史を持つ国であり、ほぼ常に独立の外交政策を実施する特権を利用してきました。

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

今日になってこの伝統を変えたりはしません。同時に、世界がどう変わったかについては十分に認識しているし、自分自身の機会と潜在能力については現実的な感覚を持っています。そしてもちろん、我々は責任ある独立したパートナーたちとやりとりを続けたい。共に働いて、公平で民主的な世界秩序を構築し、それにより選ばれた少数だけでなく万人にとって安全保障と繁栄を確保するようにしたいのです。

ご静聴、ありがとうございます。

質疑応答

ホルスト・テルチク：重要な演説、まことにありがとうございました。新しい主題が出てきました。グローバル安全保障アーキテクチャ——過去数年にわたり前面には出てなかった話——軍縮、兵器管理、NATO ロシア関係の問題、技術分野の協力です。

まだ山ほど質問があるので大統領が回答してくれます。

質問：大統領閣下、演説ありがとうございます。強調しておきたいのですが、ドイツ議会はヨーロッパのパートナーとしてのロシアの重要性を確信しており、あなたの果たす役割の重要性も認識しております。ドイツ連邦首相も演説で述べた通りです。

経験から、あなたの演説で二つの問題について言及したい。まず、NATO と NATO 拡大についてのご意見についてです。あなたはこれをロシアにとって危険な現象と見ていますね。この現象は実務的には拡大ではなく、それを求める民主国の自決なのだという点はお認めになりますか？ そして NATO は、そうした用意を宣言しない国は受け入れ難いのだという点もお認めになりますか？ NATO 拡大のおかげで東部の国境がもっと信頼できる安全なものになったと認めてもいいのではありませんか？ なぜあなたは民主主義を恐れるのですか？ 民主主義国だけが NATO に加盟できると私は確信しています。これは近隣国を安定させます。

あなたのお国の中で起きていることについてです。アンナ・ポリトコフスカヤの殺害（訳注：この会議の前年 2006 年）が象徴的です。これは多くのジャーナリストに影響し、万人を恐れさせると言えますし、NGO についての法律も警鐘を鳴らすものと言えます。

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

質問：不拡散についてのコメントはよくわかります。特に冷戦の終わりには核兵器配備の削減を見たのに、テロの増加も見られました。核物質はテロリストから遠ざけねばなりません。

質問：ドイツ連邦首相への質問に戻ります。コソボとセルビアの未来はどうなりますか？
アーティサリ氏（訳注：コソボ問題の国連特使）についてはどう思われますか？ ロシアはこの問題解決にどう影響力を行使されますか？

質問：チェチェンのロシア兵の経験について一言お願いします。そしてエネルギーに関するご意見についてです。エネルギーが政治で果たす市場の役割について少し触れられましたね。EU は固定した政治原則を含むパートナーシップ合意をまとめるのに関心があります。この合意内を含め、信頼できるエネルギー供給を保証する用意はありますか？

質問：大統領閣下、あなたの演説は誠実かつ率直なものでした。私の率直で直裁な質問もご理解いただければと思います。1990 年代にロシアの専門家は、イランのミサイル技術開発を積極的に支援しました。イランはいまや、ロシアやヨーロッパの一部を攻撃できる先進的な中長距離ミサイルを保有しています。またこうしたミサイルに核弾頭を搭載しようと作業を進めています。貴国はこの問題についてイランと交渉努力をしてきて、イランがそうした政策を実施するのを阻止する国連安全保障評議会決議も支持しておられます。

私の質問は以下の通りです。こうしたイランにおけるきわめて深刻な出来事を止めるために、ロシアは——国連を通じてであれそれ以外であれ——どんな努力をされますか？

質問：未来の歴史研究者たちがこの会議を、第二次冷戦の宣戦布告だったと言わないだろうとは信じております。が、そうなりかねない。イランに圧力をかけてプラスのインセンティブを提供するのが重要だとおっしゃいましたね。しかしロシアは制裁を通じて強い圧力をかけるプロセスを邪魔しているのは事実ではありませんか？ 第二に、武器の配送について。ロシアはイランを後押ししています。特にそうした兵器がレバノンとガザに登場して以来それが顕著です。これについてのコメントは？

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

質問：率直さは理解しますし、こちらの率直さも受け入れてくれると願いますよ。まず、軍備制限について。新しい軍拡競争などだれも求めていません。指摘させてもらいますと、アメリカは二十年以上にもわたり新しい戦略兵器を開発してないのに、ロシアはトポル M ミサイルを試験していますし、それをすでにサイロや移動発射装置で配備してるじゃないですか。アメリカの一方的行動を非難され、軍事行動が正当なのは国連の承認を得た場合だけだと二度にわたりおっしゃいましたね。イラクとアフガニスタンでは、アメリカは国連の決断に沿って軍事行動を行っているし、今日のコソボでは兵の大半はそこでの平和実現作戦を支持しています。

私の質問は以下の通り：あなたはロシアが国際的利害にとっての脅威をどう受け止めようとも、国連の承認なしには軍事行動を行わないと言うんですか？

質問：一極世界の危険性として、ある主権国が他のだれにも相談せずに決断を下すという話をされました。多くの人の意見では、ロシア国内ではますます一極化した政府が見られ、国家院だろうと地域指導部だろうとメディアだろうと実業界だろうと NGO だろうと、競合する影響力の中心が党の公式主張に従うよう強制されていると言われます。エネルギー安保がかかっているとき、一極化した政府はそれほど信頼できるパートナーに成り得るでしょうか？

ウラジーミル・プーチン大統領：まずみなさんの質問にお礼を申し上げたい。実に興味深い。残り時間がほとんどないのが残念ですよ。全員と個別に議論したかった。これは実に楽しい。すばらしい。

最後の質問、ロシア政府の一極的な性質から始めましょう。今日、ロシア連邦共産党、統一ロシア党、自由民主党、さらにそれ以外の政治勢力もロシア議会で議席を持っています。そしてその基本的な立場は大いに異なっています。これをご存じないなら、ロシア連邦共産党の指導部と話をし、それから自由民主党の指導者ジリノフスキー氏と話をしてみるだけでいい。すぐにちがいがわかるでしょう。いまそれを理解できないなら、是非彼らと話をしてください。何も問題はありません。ササッとモスクワに行って話をしてください。

将来の計画について。成熟した政治システムはほしい。多数政党システムで、責任ある政治家たちが、国の発展を予想して、選挙前と直後だけに責任ある形で行動するのではなく、長期の未来についても責任を持てるようなシステムです。それが我々の

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

目指しているものです。そしてこのシステムはまちがいなく多数政党のものとなります。ロシア国内の我々の行動すべては、国家院選挙のレジーム変更も含め、ロシアの多数政党システムを強化するよう設計されています。

そして今度は、政府の内閣がエネルギー供給につながる問題を解決するにあたり責任ある行動ができて、エネルギー安保を確保できるかという点について。できるに決まってるでしょう！ さらに我々がこれまでも今もやっていることの目標はたった一つ、つまり消費国やエネルギーを輸送する国々（訳注：主にウクライナのこと）との関係を、市場ベースの透明性ある原理と長期契約に基づくものへと移行させることなのです。

あなたに思い出させてあげましょう。私の向かいにすわっている我が同僚ウクライナ大統領（訳注：ヴィクトル・ユシチェンコ）もご存じのことです。2006年までの15年間にわたり、我々の困難な会談の間に、それに対応する決断をしなかった長期にわたって、ロシアのエネルギー配送と、まずなによりもヨーロッパへの天然ガス供給は、ロシアの天然ガスを当のウクライナに配送するときの条件と価格に依存していました²。そして我々が何の合意にも達することができないなら、ヨーロッパ消費国はすべて、天然ガスなしですわっているしかできない。そんなことになってほしいんですか？ そうは思わないんですがねえ。そして各種スキャンダルはあるし、利害の保護もあるし、意見の相違もあるけれど、ユシチェンコ大統領とは合意に達することができています。私は彼が責任ある、絶対的に正しく市場ベースの決断を下したと考えています。今後五年間のウクライナへの天然ガス配送と、ロシアの天然ガスのヨーロッパ輸送について、別々の契約に調印しました。この決断については、あなた方は我々両方、ロシアとウクライナに感謝しなさいよ。そして、あなたのご質問にも感謝します。

あなたの質問にまとめて答えた方が良かったですね。

² 訳注：ロシアからヨーロッパへの天然ガスはウクライナ経由で送られていた。ウクライナなど旧ソ連国は、ロシアから市場価格の三分の一以下の友邦優待価格でガスを融通してもらっており、さらにウクライナはヨーロッパ向けのガスを途中でかすめ取ったりして、ロシアの怒りを買っていた。これを国際価格での販売にしろという交渉は、ロシアとウクライナの昔からの大紛争ネタで、両者のけんかで欧州向けのガスが止められる事態が頻発していた。ロシアがウクライナを見下す遠因でもあり、ウクライナを経由しないノルドストリームが開発された理由でもある。

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

NATO の東方拡大に関する我々の味方ですが、すでに行われた保証と、それが今日遵守されていないことは述べました。なんですか、あなたはこれが国際関係で普通のやり方だとも思ってるんですか？ が、いいでしょう。忘れましょう。そんな保証なんか忘れちまうがいい。民主主義と NATO 拡大について。NATO は国連とはちがいが、ユニバーサルな組織ではありません。それはまず何よりも、軍事および政治同盟なんです。軍事と政治ですよ！ ええ、自国の安全保障確保はあらゆる独立国の権利です。それに反対はしてませんよ。もちろんそれに反対はしない。でもなぜこの拡大の間に、軍事インフラをうちの国境に置く必要があるんですか？ だれかこの質問に答えてくれませんか？ 軍事インフラの拡大が、今日のグローバルな脅威と戦うことと関連しているのでない限りですよ？ 別の言い方をしましょう。今日、こうした脅威の中で最も重要なものは何でしょうか——ロシアにとって、アメリカにとって、ヨーロッパにとってです。それはテロリズムと、それに対する戦いです。

テロとの戦いでロシアは必要ですか？ 当然必要です！ テロとの戦いでインドは必要ですか？ 当然必要です！ でも我々は NATO 加盟国ではないし、他の国もちがう。でもこの問題について効果的に対応するには、力を合わせるしかない。だからインフラ、特に軍事インフラを我々の国境に拡大するのは、個別国の民主的な選択とはいささかも関係していない。だから、この二つの概念をごちゃ混ぜにしないようお願いしたい。

やれやれ、質問のメモがあまりにぐちゃぐちゃで、自分でも何を書いたか読めないほどです。読める範囲でお答えして、何か答え忘れたら、質問が何だったか思い出させてください。

コソボとセルビアがどうなるか？ コソボ人とセルビア人にしかわかりませんね。そして彼らに、どう生きるべきかをお説教するのはやめましょう。神さま役を演じて、こうした人々の問題すべてを解決してやる必要はないんです。我々は共に、ある必要条件を作り出して、人々が自分の問題を解決するのを手伝うことしかできません。必要条件を作り、ある種の合意の保証人として行動することです。でもそういう合意を押しつけてはいけません。そうでないと、単に状況を行き詰まらせるだけです。そしてこの困難なプロセスで参加者のだれかが気分を害したり侮辱されたと感じたりしたら、問題は何世紀も尾をひきます。行き詰まりを作り出すだけです。

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

我々の立場はどういうものか？ 立場はまさにこの原則に従うというものです。そしてある側が明らかに状況解決の提案に不満を抱いているようなら、その選択肢は支持しません。

チェチェンでの兵員の経験についてお尋ねになったのがどういう意味なのか、よくわかりませんでした。彼らの経験は快いものではありませんが、広範なものです。そしてチェチェン全般の状況に興味がありなら、議会と大統領が選出され、その政府は機能しているとは申し上げられます。権力と行政の機関はすべて形成されました。チェチェンの政治勢力はほぼすべて、共和国の業務に参加しています。一例として、アスラン・マスハドフ政府の元国防大臣は、いまやチェチェンの議員です。そしてかつての蜂起軍が普通の生活だけでなく、共和国の政治活動にも戻れるようにするための、実に様々な決定を下しました。だから今日、我々は経済政治手法を使って行動するほうを好みますし、実務面でも、安全保障確保の責任はほぼ 100% チェチェン人に移転しました。チェチェンで形成された法秩序の執行機関はほぼ 100% が地元市民、チェチェンに永住している人々で構成されているのです——チェチェン人でね。

レバノンの話も、やはり何をおっしゃっているのかよくわかりませんでした。でも、はい、我々がレバノンに軍事建設労働者を派遣して、イスラエルとの紛争で破壊された橋やインフラの再建を行ったというのは、周知の状況、いま私が述べたものを裏付けるものです。イスラム教徒が暮らす地域で我が国の兵が活動するのであれば、イスラム教徒の兵員部隊を派遣するのは悪くない考えだと思いました。そして、それは当たりでした。地元民たちは、うちの軍事建設者たちを本当に温かく歓迎してくれました。

さて EU とのエネルギー合意の話です。私は質問をそういうものだとして理解しましたよ。我々は何度となく、EU とのエネルギー関係の根底にある原則への合意には反対していないと述べてきました。さらに、憲章に含まれた原理はおおむね理解可能なものです。しかし憲章自体は我々にはあまり受け入れられない。というのもロシアだけでなくヨーロッパの相方たちもその原理を遵守していないからです。核物質の市場はいまだに我々には閉ざされていることを考えるだけで十分でしょう。だれもその市場を我々に開放してはくれません。

いまここで注目を集めるのはとにかく控えたい他の瞬間もあります。しかし原則それ自体についていえば、そうした原理はすでにドイツ企業との作業で使っています

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

よ。ガズプロムと BASF とのあいだで行われた取引を思い出していただきたい。実のところ、これは資産スワップでした。こういう形で仕事を進める用意はあります。準備万端。でもそれぞれの具体的な事例で、我々が何を与え、相手が何を与えるかを理解し、計算して、独立国際専門家の評価を受けて、決断を下さねばなりません。我々はこの仕事に取り組む用意はあります。実はイタリアのパートナー、ENI という企業とごく最近にも似たようなことをやっています。そして 2035 年——だったかな——までの供給についての合意に、単に調印する以上のことをやりました。資産スワップについても話をしたんです。そしてこの種の協力をウクライナの友人たちとも検討しています。これは進んでいます。

そしてこうした原理については、ロシアと EU とのあいだで考えられる将来的な根本文書で修正する必要があるでしょうか？ この問題については意見がちがうかもしれません。私は必要ないと思います。というのもエネルギーにとどまらず、EU との協力は他の分野もあるからです。農業、ハイテク、運輸などです。そしてこれらはすべて、とても重要でとてもおもしろい。そしてこのすべてを、枠組み文書として昨日するようなたった一つの根本法に詰め込むことはできない。あるいは、そっちの必要とするものだけを文書に入れて、こっちが必要とするものは枠組みの外に置いてほしいということですか？ お互い正直に話し合って、相互に受け入れられる決断を下しましょう。

「1990 年代にロシアはイランのミサイル技術開発を手伝った」。この質問をしたのはあなたでしたっけ。「今日のイランはヨーロッパに到達できるこうしたミサイルに核弾頭を載せたがっている。ロシアはイランの各プログラムをどうする気か？」そういう質問でしたね？

えー、そもそも 1990 年代のロシアがイラン独自のミサイル技術開発を手伝ったというデータは手元にありません。それについてきわめて積極的に活動したのは他の国々でした。そして技術移転は別の経路で行われています。そして我々はその証拠も持っています。当時私はそうした証拠をアメリカ合衆国大統領に直接渡しましたよ。そして技術はヨーロッパやアジア諸国からもきています。

だからロシアのせいにされるのは心外ですね。保証しましょう。ロシアはここで最も関与の少ない国なのです。当時私はまだサンクトペテルブルクで働いていましたが、我々はこんなものに関わっていない。これについては保証します。でも事業レベ

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

ルでは何かがあった可能性はありますねえ。我々は研究所などで専門家を養成しました。そしてアメリカの相方の要求と情報にしたがって、我々はこれに厳しい対応をしました。即座に、厳しくですよ。ヨーロッパを含む我々の他のパートナーでは、そんな対応は見られませんでしたね。さらに、ご存じかどうか知りませんが、軍事技術や特殊設備はいまだにアメリカからきています。いまだに F-14 戦闘機のスペアパーツは、米軍やペンタゴンからきています。私を知る限り、この問題についてはアメリカで捜査さえ行われているはずです。そしてこの捜査が進行中で、こうしたスペアパーツが国境で押収されて送り返されたという事実にもかかわらず、しばらくたつと、私の手持ちのデータによれば——そしてそれが不正確ならチェックしてください——その同じ貨物が、またもや国境で押収されています。そして「物理的証拠」なるレッテルまで貼られていましたよ。

いやあ、こういう流れは本当に止めにくい。止めるには我々同士の協力が必要なんです。

イランがヨーロッパを脅かすミサイルを持っているかの話。あなたがまちがっている。今日のイランは持っています——ゲイツさんが今日いらしているので、まちがいでなくこのデータについて私より詳しいでしょう。ロシア国防大臣も来ていますね——2000 キロの射程距離を持つミサイルがあります。

ロシア国防大臣セルゲイ・イワノフ： 1600-1700 キロです。

ウラジーミル・プーチン： 1600-1700 キロ。わずか。では、ミュンヘンとイラン国境との間は何キロあるのでしょうか。イランにはそんなミサイルはありません。射程 2400 キロのミサイル開発計画はあります。それだけの技術がイランにあるかははっきりしません。そして射程 4000, 5000 または 6000 キロとなると、これは単純に、ちがう経済を必要とすると思いますよ。だから一般的に考えにくい。そしてイランはヨーロッパを脅かしてはいない。彼らが核弾頭を準備しているという考えについてですが、我々はそんなデータを持っていない。核弾頭についてのデータはないのです。

北朝鮮は核デバイスの試験をしました。イランは絶えず自分たちの核プログラムは平和的な性格だと言い続けています。しかし国際社会はイランの核プログラムの性質と中身について懸念を抱いているという点は合意します。そしてエルバラディ

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

氏 (IAEA 事務局長) は最近こうした懸念について、六カ条だか七カ条だかで述べたはずです。この点についてはあなたに同意します。そしてなぜイランの党が、エルバラディ氏が述べた懸念にポジティブで建設的な形で対応せず、そうした懸念を収めなかったのか、私には理解できない。あなたに理解できないのと同様、私にも理解不能なのです。

それをどうするつもりかって？ 我々は共に辛抱強く慎重に行動すべきだと思いますよ。そして、おっしゃる通り、インセンティブを作ってイラン指導層に、国際社会と協力するほうが対立するよりずっといいのだと示すことです。

そう、そしてイランへの武器提供の話に戻ります。提供よりも話ばかりなのはご存じでしょう。イランと我が国の軍事的、技術的な協力は最小限のものです。もうひたすら最小限。どの程度の最小限の数字で推計されているか、ちょっとはっきりしません。一般には、アメリカを含め他の国と比べても、中東に提供している軍備ははるかに少ない。まったく比べものにならない。最近、イランに対空兵器システムは提供しました——それは事実です。中距離の、およそ 30-50km の射程です。これは事実です。なぜそれをやったか？ これは説明できます。イランが隅っこに追い詰められたと感じないようにやったのです。何か敵対的な環境にいると感じたりしないようにするためです。むしろイランが、対話のチャンネルを持っていて信頼できる友人もいると理解できるようにするのです。我々はイランの党が我々の信号を理解して聞いてくれるものと大いに期待しています。

レバノンとガザにある我々の兵器との話。我々の武器がガザにあるとは聞いたことがありません。そんな事例は寡聞にして知らない。まあ、カラシニコフは一般に世界で最も広く使われている小火器です。おそらくどこにでもあるでしょうね。そしてドイツや、いずれにしてもまだ破壊されていない自動カラシニコフもまだあるでしょう。これは 100% 確実です。

レバノンは確かにあります。我々の対戦車システムの要素がそこでは見られます。それは確かです。我々のイスラエルの相方がこれについて一度話してくれました。何が起きたかについて、徹底した調査を行いました。そして、こうしたシステムがシリア軍撤退後にレバノン領に残されたのだと見極めました。将来のシリアとの軍事技術協力は、武器が本来の対象である国以外のどんな手にも陥る可能性を排除するものとすることにしました。いろいろありますが、たとえばロシアの専門家の都合でいつで

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

も倉庫査察ができる仕組みなどです。ロシア兵器システムがシリアに提供された後で倉庫を査察します。

「アメリカは戦略兵器を開発していないがロシアはしている。ロシアは国連の承認なしに将来軍事力を使うか？ ロシア戦略兵器システム開発中」

いい質問です。すばらしい！ この質問をしていただいて大いに感謝します。何が起きているかの要点について話す機会ができますから。二大超大国の間と二つの仕組みの間にらみ合いが過去数十年にあったが、それでも大戦が起きなかったのは何のおかげでしょうか？ この二大超大国の間のパワーバランスのおかげです。均衡と相互破壊の恐れがあったのです。そして当時は、片方は相手に相談せずに追加の一步を踏み出すのを恐れていました。そしてこれは確かに脆い平和で恐ろしいものではありませんでした。しかし今日考えると、十分に信頼できるものでした。今日では、平和はそんなに信頼できるようには思えません。

そう、アメリカは見かけ上は攻撃兵器を開発していません。いずれにしても、世間はそれについて知らない。もちろんまちがいなく開発しているにもかかわらずです。しかしこれについては今尋ねたりさえしません。こうした開発が進んでいるのは知っています。でも、知らないふりをするため、我々は連中が新兵器を開発していないと言うのです。でも、我々は何を知っているのでしょうか？ アメリカは積極的に、対ミサイル防衛システムを開発し、すでに強化しているということです。今日このシステムは役立たずですが、それがいつの日にか有効になるかどうかははっきりわかりません。しかし理屈の上では、これはその目的のために作られています。したがって我々は、この瞬間がやってきたら、我々の核武力から考えられる驚異は完全に無力化されると仮想的に認識しています。つまりロシアの現在の核能力が、ということです。パワーバランスは絶対的に破壊され、片側が完全な安全保障の気分という恩恵を受けます。これはつまり、その片側の手は局地戦のみならず、いずれはグローバル紛争においてもまったく縛られなくなるということです。

我々はこれをいま皆さんと議論しています。こちら側に何か攻撃的な意図があるなどとはだれにも勘ぐってほしくない。でも国際関係の仕組みは数学と同じです。個人的な側面などない。そしてもちろん我々はこれに対応すべきです。どうやって？ あなた方と同じ、つまり何十億ドルもの対ミサイルシステムを構築するか、あるいは現在の経済財政的な可能性から見て、非対称的な答を開発するかです。それによりあら

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

ゆる人が、ロシアに対しては対ミサイル防衛システムが、それを簡単に克服できる何かの兵器を持っているので再び役立たずだと理解できるようにするのです。そして我々はこの方向に進んでいる。そのほうが我々にとって安上がりだ。そしてこれはどんな形であれ、アメリカ合衆国自身に対して向けられたものではない。

戦略防衛イニシアチブ (SDI) がロシアに向けられたものではないとおっしゃっても、私は完全に同意します。ちょうど我々の新兵器があなた方に向けられたものではないのと同じですよ。そして別の点でも、同僚や友人たちと完全に合意します。いろいろ意見の相違はあっても、私がアメリカ合衆国大統領を、友人だと思っているのをごぞんじでしょうか——この言葉を使うのをためらうつもりはありません。まっとうな人物だし、今日では狼たちは、国際的な舞台や国内で行われていることすべてをアメリカのせいにするのもわかっています。でも彼がまっとうな人物で、彼とは話をして合意に達することができるかと知っています。そして彼と話をしたらこう言われました。「私はロシアと米国が二度と敵や対立関係とはならないという事実から出発する」。私は彼に同意する。しかし改めて繰り返しておく、ここには対称性と非対称性がある、何ら個人的なものはない。単なる計算なのです。

さて今度は、ロシアが国連の承認なしに軍事力を使うかという話について。我々は常に国際法の枠組みの中だけで厳密に活動します。私の基本的な教育は法学だし、私は自分に対し、自分自身と同僚たちに向かい、国連憲章によれば平和維持作戦は国連と国連安全保障理事会の承認が必要なのだと告げるのを容認しています。これは平和維持作戦についての話です。しかし国連憲章にはまた、自衛についての条項もあります。そしてこの場合には何の承認も必要ありません。

さて何か忘れちゃったっけ？

質問：私の質問はロシア自体の中の多極性と、ロシアがジャーナリストの殺害について、恐怖や不安や自由不在や NGO に関連した原理をロシアが遵守しない場合の、ロシアに対する国際社会の態度についてでした。

ウラジーミル・プーチン： 二言三言言っておきましょう。すでにロシア議会の構造について話したときに質問の一部には答えました。そこでだれが代表されているか、議会での指導的な立場の人々が持つ政治的な見解をご覧ください。さて NGO となると、彼らはロシアで活発に活動しています。はい、こうした組織を登録する新しい

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

仕組みを導入しました。しかしこれは他国での登録制度と大差ないものです。そして党のNGOたちからは特に苦情はまだ出ていません。ほとんどどんな組織にも登録を拒否したりはしていません。二、三件は登録を拒否した事例がありますが、これは単に形式上の理由によるもので、こうしたNGOも自分の憲章などの一部条項修正を行っているところです。だれも内容的、根本的な問題で登録を拒絶されたことはない。みんな最も活発な形で活動が続いているし、今後もそうするでしょう。

私たちが何を気にするか？ こうしたNGOが外国政府の資金を得ているときには、我々はそれを外国国家が対ロシア政策実行のために使う道具と捉える、ということは明言できるし、万人にとってそれは明らかだと思います。これが最初の点です。二番目の点。あらゆる国には、何と言うか、選挙戦の資金提供には何らかの規則があります。外国政府からの資金は、政府内でのキャンペーンを含め、NGOを通じて入り込みます。そしてそれを嬉しく思う人などいないでしょう。こんなのが普通の民主主義ですか？ 社会から隠された秘密の資金提供ですよ。どこに民主主義があるんですか？ 教えてくださいよ。無理でしょう！ 今も教えられないし、この先も決して無理です。なぜならそこには民主主義などなく、単にある国家が別の国家に影響力を行使しているだけだからです。

しかし我々はロシアの市民社会発展に関心があり、それが当局を叱って批判し、当局自身のまちがいを見極める助けとなり、政策をロシア市民の利益にかなうよう修正する支援をしてほしいと思っています。我々はまちがいがなくこれに関心があるので、市民社会やNGOを支援します。

また恐怖だなんだという話ですが、今日のロシア人は他の多くの国の市民にうらべて恐怖が少ないというのをわかってるんですか？ というのも過去数年に我々は、市民たちの経済的な厚生を改善するための根本的な変化を導入したからです。そして我々には実に多くの未解決の問題を抱えています。貧困と関連した問題もあります。そして恐怖というのは基本的にはここから発しているとは申し上げられます。

そしてジャーナリストたちについていえば、はい、これは重要かつむずかしい問題を示しています。そしてちなみに、ジャーナリストが殺されているのはロシアだけでなく、他の国々でも同様なんです。ほとんどのジャーナリストはどこで殺されているのか、あなたは専門家なんだから、たとえば過去一年半で最も多くのジャーナリストたちが死んだ国はどこなのか、おそらくご存じですよ？ 最も多くのジ

プーチン「ミュンヘン安全保障政策会議での演説」(2007)

ジャーナリストが殺されたのはイラクなんです（訳注：この時点でイラクはアメリカの侵攻を受けてアメリカの実質支配下）。

ロシア内部における悲劇についていえば、我々はもちろんこうした現象について、可能な限り最も徹底した形で格闘し、ロシアへの信頼を台無しにして政治システムに被害を与える犯罪者どもすべてに厳罰で対処します。

ご静聴ありがとうございます。



ミュンヘン会議でのプーチン演説風景（Wikimedia より）